

北海道大学サステナビリティ・ウィーク2013

シンポジウム：パーマカルチャー

～持続可能な農業を目指して～

持続可能な農業振興のためには、土壌（形成・成熟・死）、土壌の生物学的法則（微生物・動物相・根等の役割）と、それらの法則をいかに農業に適用するかを理解しなければなりません。そのためには、何百年も前から存在しており、持続可能性の証しでもある「野生」環境を研究し、それらの働きの法則を農業に適用する必要があります。

日時：10月25日（金）16:00～

会場：北海道大学農学部4階大講堂

入場無料／要予約／通訳付



基調講演

農業における土壌生物学の役割

リディア&クロード・ブルギニョン

世界中で実践してきた20年以上に渡る分析事例を紹介しながら、どのように土壌の豊かさを回復させるのかを示します。

植物にバランスの取れた養分を与えるのは、土壌の微生物であり、その豊かさを回復させることによって、新たに質の高い食糧を得ることができるようになります。



リディア&クロード・ブルギニョン（LAMS※土壌微生物分析研究所所長）

夫のクロードは、農業技師で土壌微生物学博士。1970年代、バイオマスや土壌の微生物（バクテリアや菌類）の豊かさが損なわれていくことに初めて警鐘をならした一人である。元INRA国立農業研究所研究員。

妻のリディアは、科学修士でブルゴーニュ大学ワイン醸造技術者免状を取得しており、クロード同様、INRA国立農業研究所の元エンジニア。

ドメヌ・ルフレーヴ、シャトー・ラトゥール、ドメヌ・デ・コント・ラフォン、シャトー・オーズヌを初めとする名だたるドメヌやシャトー、農家・農業関係組織やゴルフ場等のスポーツ施設との民間レベルでの活動に留まらず、土のエキスパートとして、フランス政府や国際機関から海外へ派遣される等、その活動は多岐に渡る。

共催：札幌日仏協会/アリアンス・フランセーズ札幌、アンスティチュ・フランセ日本、北海道大学農学研究院・国際本部